

Q & A

■指標種とは？

「あいちの生物多様性ポテンシャル 気づく・まもる・つなげるマップ」の作成にあたって検討の対象とした生物。生態系を構成する生物から、複数の生物を代表するものや生態等のデータがあるもの選定した。

地域の生態系は多くの生物から成り立っており、それぞれの生物が異なる生態を持っている。生態系ネットワークの検討は、できるだけ多くの種類の生物を対象とすることが理想だが、指標種が多くなると検討が複雑になることや、検討のために必要な生物の行動、生息・生育場所のデータが十分でないなどの課題があり、多くの生物種を対象とすることは現実的には難しいことから選定した。

■生息可能性（ポテンシャル）とは？

指標種の生態的特性（餌場や繁殖場所などの好み）に基づいて『指標種がすみやすいと考えられる場所』を予測したもの。

予測であるため、実際には指標種が生息していないこともあるが、生息していない理由を考えて環境を改善したり、ビオトープを再生するなどの工夫をしたりすることによって、比較的容易に指標種を呼び戻せる可能性がある場所と言える。

■生態系ネットワークとは？

水辺と水辺、森と森、水辺と森といったように、同じタイプの環境や、異なるタイプの環境がネットワークされていること。生物の生息拠点である「コアエリア」を生物の移動経路である「コリドー」でつなぐことが基本的なイメージである。効果的に生物の生息環境を守り再生するための方法であり、「あいち自然環境保全戦略」でも柱の一つになっている。

野生生物の多くは、一つのタイプの生息空間で一生涯を完結しているわけではなく、採食・休息・繁殖、あるいは一日、一年、一生を通じて複数の異なるタイプの生息空間を利用している。たとえば、ニホンアカガエルは、卵・オタマジャクシの時は、田んぼや湿地などの浅い水域、子ガエルは草地、親ガエルは林で生活している。マガモの仲間は、ねぐらとなる池沼と食物をとる草地や農地の間を毎日移動している。

また、ある生物の集団が孤立すると近親繁殖によって遺伝的な多様性が失われてしまうので、他の集団との繁殖交流をするために、移動できる範囲内に同じタイプの生息・生育空間が複数存在していることが必要である。さらに、ある生物の生息・生育空間がなくなってしまった場合でも、その生物が移動できる範囲に同じタイプの生息・生育空間があれば、その地域から絶滅する危険を減らすことができる。

■HSIとは

ハビタット適正指数（Habitat Suitability Index）の略。対象とする野生生物の生息環境（ハビタット）の質を0（適正なし）から1（最適）までの値で表わしたもの。HSIモデルを用いて算出する。HSIモデルは、対象とする生物の生態に関する研究結果などを基に作成される。